

### 二月の法座・行事

- 二日・実如上人御祥月御命日
- 六日・彰如上人御祥月御命日
- 八日・現如上人御祥月御命日
- 十一日・同朋の会例会(午後十四時)  
大阪教区第七組  
教應寺住職 建部 智宏 師
- 十二日・闡如上人御逮夜・常永代経(午後一時半)  
長教寺住職 稲垣 洋信 師
- 十三日・闡如上人御命日(午前八時)
- 二十二日・常如上人御祥月御命日
- 二十四日・正信偈書写の会(午前十時)  
定例法話  
長浜教区第十二組  
真廣寺住職 竹中 慈祥 師(午後一時半)
- 二十五日・善如上人御祥月御命日
- 二十七日・宗祖聖人御逮夜(午後二時)
- 二十八日・宗祖聖人御命日(午前八時)

### ◆敬弔

生前の遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 法名 釋義心  
俗名 古澤 義幸  
十二月七日寂 享年八十四歳
- 法名 慈心院釋尼妙良  
俗名 角野 良子  
十二月三十一日寂 享年九十二歳

信心のさだまるとき、  
往生またさだまるとなり  
(法語カレンダーより)

霊園・墓石



**株式会社 太田石材店**

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号  
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18号  
TEL 06-6930-5075  
0120-30-5075  
FAX 06-6930-5078

**編集後記**

人が亡くなる原因は事故であったり、病気であったり様々です。何れにしても故人の死をすぐに受け入れることは難しいと思います。「会うは別れの始め」ということわざがあるように、出会いに別れはつきものですが、なかなか会えない距離におられるということもまた寂しいことだと、今号の「六字城」に掲載する輪番雑感、退任のご挨拶を読ませていただき、感じさせられました。

堀河

# 六字城

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役  
宣心院 大谷 暢文

『現世利益和讃(十)』

南無阿弥陀佛をとらふれば  
他化天の大魔王

釈迦牟尼佛のみまえにて  
まもらんとこそちかいしか

(南無阿弥陀佛とお念仏を称えるならば、第六他化自在天の大魔王が、お釈迦さまの御前にて、その者をお守りするということをお誓いになりました。)

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院  
大阪市北区東天満一-八-二六

電話 六三五一一三五三五  
代表者 輪番 長谷山法雄

このご和讃は、念仏者をお釈迦さまの前で、第六他化自在天の大魔王が護持する利益を詠ったものです。その典拠となる経典は『金光明経』の「付属品」です。そこには「その時、魔王、合掌恭敬して伽陀をといわく、もしこの経を持つ者あれば、よく煩惱を伏する。かくのごとき衆生の類、擁護して安楽ならしめん。もしこの経を説くことあれば、もろもろの魔は便りを得ず。仏の威神力によつてわれまきに彼を擁護すべし」とあります。

仏教の世界観に三界というものがありません。三界は、欲界・色界・無色界の三つの総称で、三有ともいいます。凡夫が生死を繰り返しながら輪廻する世界を三つに分けたものです。お釈迦

さまをはじめとする諸佛は、この三界の輪廻から解脱している存在です。「欲界」とは、淫欲と食欲の二つの欲望にとらわれた有情の住む処で、私たちがいる世界のことです。さらに欲界は、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道に分けられ、さらに細かく六欲天から人間界を含み、無間地獄までの世界に分けられます。

「色界」とは、欲界の二つの欲望は超越できたが、物質的条件(色)にとらわれた有情が住む処です。この色界は禅定の段階によって、四つ(四禅天)に分けられ、またそれを細かく十八天に分けます。「無色界」とは、欲望も物質的条件も超越し、ただ精神作用のみ住む世界であり、禅定に住してい

る世界をいいます。

次に「他化天」とは、三界の欲界に属し、正式には「第六他化自在天」といい、天上界である六欲天の中で最高位にあります。序列では私たちの住んでいる人界よりも上等ではありませんが、淫欲と食欲の二つの欲望にとらわれていきます。ご和讃には「大魔王」とあります。「魔」という言葉からもわかるように、本来は衆生の心身をかき乱し、善法を妨げる仏道修行の障碍です。

ところが、南無阿弥陀仏とお念仏を称えるものに対しては、仏道修行の障碍とはならないと言っています。それどころかお釈迦さまの前でお念仏を称えた者を護ると誓っているのです。典拠の経典では『金光明経』を称え広めるものを護持すると言っています。親鸞聖人は、ここを南無阿弥陀仏のお念仏に置き換えられたようです。

### ◆天満別院新年互礼会

去る一月二十一日（日）に太閤園淀川邸に於きまして、平成三十年天満別院新年互礼会を開催いたしました。開会の言葉の後、輪番挨拶があり、天満別院責任役員 奥林 曉氏の新年挨拶、そして門徒会会長 宇野 善昭氏が乾杯の音頭をとられ、会食歓談となりました。



最後には天満別院責任役員 榎屋 義雄氏より閉会の言葉があり、お開きとなりました。



今年度は長谷山輪番にとっては最後の互礼会となりました。今年度も多数のご参加をいただき、盛大に和やかな一時を過ごすことができました事を御礼申し上げます。

### ◆御礼

一月二十四日（水）の定例法話の後に、毎年の恒例となっております、天満別院婦人部の皆様による「ぜんざい」のご接待に多数のご参加をいただきありがとうございました。



天満別院婦人部の皆様、またお手伝いをいただきました方々に厚く御礼申し上げます。



### 退任のご挨拶

二月二十八日をもって任期満了を迎え、天満別院輪番の職を退任いたしましたこととなりまして。二〇一二年三月一日に輪番を拜命して以来、六年間にわたり職責を大過なく全うすることができました。これも崇敬各寺院の皆様、別院門徒、墓主等多くの皆様方の格段のお力添えとご協力のおかげです。衷心より厚くお礼申し上げます。

### 輪番雑感

思い返せば、大谷本願寺の法灯を受け継ぐ当別院の「宗祖親鸞聖人

七百五十回御遠忌法要」「開基教上人四百回忌法要」を二〇一五年十月二日～四日の二昼夜にわたり御門首御親修のもと厳修され無事に円成したことは、私にとって生涯忘れることのできない尊いご縁でした。「仏教への信頼は高いが寺院・僧侶への信頼が低い」という調査のように、都市部では「お寺との付き合いは要らないが、仏教は学びたい」という方々が多くおられます。「寺離れ」ではあるが「仏教離れ」ではない時代社会の課題に向き合い、「寺」の回復を願い、御遠忌を機に教化委員会をスタートさせ、これまで以上に寺族・門信徒等が足をはこぶ間法道場を目指した新たな歩みを皆様のご協力で始めることができました。重ねてお礼申し上げます。

自坊に帰り前任職として門信徒の皆様と聴聞を重ねて、宗門興隆に微力ながら尽くしていきたいと存じます。皆様方からの心温まるご厚情に深く感謝申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

合掌